

第4グループ

(教育)

一小的の ^{さいとう} 齋藤 ^{みもり} 心森 と申します。

それでは質問させていただきます。

登下校時の荷物の軽量化について

私は、登下校時の通学路には、交通事故や不しん者など、危険がたくさんあると思います。そんな通学路で、たくさんの教科書などが入った荷物を持ち歩くのは、いざという時にすばやく動くことができず、危険だと思えます。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

教科書類の電子書せき化です。毎日何時間もの授業で使う教科書類に加えて、ドリルや資料集なども持ち歩くので、さらに荷物が重くなります。

教科書類を電子書せき化することで、荷物を大はばに軽くすることができます。

そうすれば、いざという時にすばやく動くことができ、安全に登下校することができます。また、近年問題になっている森林の減少や二酸化炭素のはい出量の増加など、紙を使わないことで、これらの問題を解決するための大きな取り組みの一つになると思えます。

市では、登下校時の荷物の軽量化についてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願ひします。

一小 齋藤^{さいとう} 心森^{みもり}さんの質問への答弁

「登下校時の荷物軽量化について」

一小 齋藤さんの質問にお答えいたします。

齋藤さんからは、登下校時の通学の安全に関わる荷物の軽量化についてのご提案をいただきました。また、環境問題にも視点を当てるなど大変素晴らしい提案だと思いました。

特に小学生が背負っているランドセルの重さの問題については、以前より様々な方面から指摘がなされています。平成30年9月に文部科学省より「持ち帰るもの」と「学校に置いておくもの」、これをはっきりさせるなどの工夫をするよう通知が出されています。

齋藤さんには、教科書などを電子化することで荷物が軽くなるとのご提案をいただきました。教育委員会としましても、同様の考えから、現在、デジタル教科書が使えるよう、国や県と調整を図っているところです。

ただし、今後、教科書を普及していくためには、解決していかなければならない課題もあります。例えば、教科書がデジタル化されることで、紙の教科書でなければ感じ取れない学びの機会が減ってしまうこと、タブレットを見る時間が長くなり、視力の低下など健

康面への影響が心配されていることなどがあげられます。

今後は、デジタル教科書の利点や課題などをしっかりと見極め、普及に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。

将来的には、こうした取り組みをとおして持ち帰る荷物が軽量化され、通学時の安全確保につながると考えています。

ただ、国や県などと調整を図りながら進めていくため、もう少し時間がかかります。

それまでの間、必要な最小限のものだけを持ち帰るよう工夫するなど、先生方とよく相談し、通学時の安全確保に努めていってください。

貴重なご提案をありがとうございました。

四小の ^{はんだ}半田 ^{わたる}航 と申します。

それでは質問させていただきます。

学校の電気の消し忘れについて

ぼくの学校では、はり紙をはったりして電気の消し忘れ予防をしていますが、学校にいる時に、トイレの電気がついている時があり、むだづかいになってしまうのではないかと思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

学校のトイレの電灯をセンサー式にすることで点灯と消灯を自動化すればよいと思います。

そうすれば、電気のむだづかいがへり、さらにスイッチ部分の接触でのコロナウイルスの危険が少なくなると思います。

市では、学校の電気の消し忘れについてどのように考えていますか。教えてください。よろしく申し上げます。

四小 ^{はんだ}半田 ^{わたる}航さんの質問への答弁

「学校の電気の消し忘れについて」

四小 半田さんの質問にお答えいたします。

半田さんからは、学校の電気の消し忘れについてのご提案をいただきました。節電や新型コロナウイルス感染症対策のことまで深く考えてくれて、大変感心いたしました。

現在、四小では「電気を節約しよう」「水を大切に使おう」「花壇の花を育てよう」などの環境活動スローガンが掲示されていたり、教室のスイッチには「電気を大切に使おう」と表示されていたりして、学校全体で省エネ対策や環境対策に熱心に取り組んでいる様子が大変良く伝わってきました。

今回のご提案は、こうした取り組みに真剣に向かい合っている半田さんだからこそその提案であったと思います。トイレの電灯をセンサー式にすれば、電気の消し忘れが無くなり、電気の無駄遣いを防止することができる。まさにその通りですよね。

ただ、もう一つ大切にしてもらいたいことがあります。それは、学校は学びの場だということです。照明は使う時だけ点ける、使い終わったら消すなどの習慣を身に付け、実践できるようにすることはとても大切なことです。例えば、現在四小で実践している取り組

みが習慣化されれば、学校以外の場所でも実行できるようになります。

そして、学校以外の場所でも実行できるようになれば、その省エネ効果は、一段と高まるはずです。ぜひ、コミュニティスクールとして取り組んでいる四小の皆さんには、学校で学んだことを家庭や地域でも実践していただき、たくさんの人たちにその実践を広げていってほしく思います。

一方で、トイレの電灯をセンサー式にすることは、新型コロナウイルス感染症対策という観点でとらえると、効果が期待できるものです。新しい生活様式が求められている今、今後学校のトイレを改修する際には、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

貴重なご提案をありがとうございました。

四小の ^{あらい}新井 ^{りく}凜空 と申します。

それでは質問させていただきます。

城沼周辺のゴミのポイ捨てについて

私は、城沼を散策する事があるのですが、空きカンやペットボトル、食べ物の袋などがポイ捨てされています。たくさんの方が訪れる日本遺産の里沼としてもっと美しく保つことができれば良いと思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

市内の小学校の子ども達が館林の名所を知るためにも、学校がクラスごとなどの課外活動で清掃をする時間をもうけます。

そうすれば、城沼の周りを清掃することで、水辺の環境がきれいになります。さらに、市内の子ども達が清掃活動を通して、館林の日本遺産を知ることができ、城沼を訪れるたくさんの方が「きれいな里沼」だと思ってもらえるようになると思います。

市では、城沼周辺のゴミのポイ捨てについてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願いします。

四小 新井^{あらい} 凜空^{りく}さんの質問への答弁

「城沼周辺のごみのポイ捨てについて」

四小 新井さんの質問にお答えいたします。

新井さんのご提案は、わたしたちの住む館林市の身近な環境美化に目を向けるとともに、館林市の魅力を学び、情報発信をすることも考えていて、とてもすばらしい提案であると思います。

館林市の「里沼(SATO-NUMA)―「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化」が、令和元年5月に文化庁の日本遺産に認定されました。構成文化財の一つである「守りの沼」城沼は、館林を象徴する沼の1つとなっています。その城沼に空き缶やペットボトル、食べ物の袋などがポイ捨てされているという現状はとても悲しく残念なことです。

新井さんのご提案のとおり、城沼の周りを清掃することは水辺の環境を美しく保ち、快適なまちを維持するためにとっても大切なことです。

また、SDGsにも貢献するものであり、館林市中の学校の子どもたちが水辺の環境保全にもし取り組むことができれば、きっと大きな効果が期待できるはずです。

ただ、館林市中の学校が課外活動としてクラスごとに清掃活動

を行うようにするためには、入念な準備が必要であり、更に誰もが高い環境保全意識を持って取り組めるようにするためには、相応の時間も要します。

そこで、新井さんにこちらからお願いがあります。

まずは、自分にできることからはじめ、友達を誘うなどしてこの活動をクラスや児童会の活動として広げていってもらえないでしょうか。一人の力は小さなものかもしれませんが、その一人が起こした行動が、たくさんの人の共感を呼び、広がっていけばきっと大きな活動へと発展していくはずです。

また、ごみのポイ捨てをしない、させないといった新たな活動に展開していくこともできます。ぜひ先生方に新井さんの環境への想いを伝えていただき、よりよいまちづくりのための第一歩をふみ出してください。教育委員会としても、そんな新井さんを全面的にサポートしていきたいと思っています。

貴重なご提案をありがとうございました。

第5グループ

(環境)

三小の ^{おおつ}大津 ^{ひろまさ}陽雅 と申します。

それでは質問させていただきます。

城沼の生態系の保全 について

私は、三年生のとき、城沼の環境などについて学びました。そのとき、ブラックバスなどの外来種が、城沼にいる魚などを減らしてしまっているという問題があることを知りました。城沼の環境をよくするためには、この問題を解決した方がいいと思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

まず、外来種を市でほかくしてもらいます。ほかくした外来種を料理として提供できるように、市から飲食店の皆さんに協力をしてもらえるようにします。そして、ほかくした外来種を料理として提供できることを、市から広報などで、市民の皆さんに知ってもらう場を作ってもらいます。

そうすれば、少しずつ城沼の環境を変えることができ、守っていくことができます。さらに、館林市に住む人たちに城沼の環境を考えてもらえるきっかけになると思います。

市では、城沼の生態系の保全についてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願いします。

三小 ^{おおつ} 大津 ^{ひろまさ} 陽雅さんの質問への答弁

「城沼の生態系の保全について」

三小 大津さんの質問にお答えいたします。

外来種は、元々その地域に生息していない生物で、様々な形で人が運び入れたものが自然に増えてしまったものと考えられます。

質問いただきました城沼にも、ブラックバスやブルーギル、雷魚などの外来魚の生息が確認されており、元々生息しているワカサギ、フナやコイなどの稚魚、卵を食べてしまうため、生態系のバランスが崩れてしまう問題があります。

外来魚の対策には、市だけでなくさまざまな機関が関係しています。城沼を管理する群馬県は3年に1回の頻度で魚類調査を行うとともに、漁業協同組合と連携しながら外来魚の分布状況を把握するため情報収集を行っています。城沼漁業協同組合では、一般の釣り人にも協力を呼び掛けながら外来魚を駆除するとともに、フナの稚魚やワカサギの卵などの放流もしています。

しかし、広まってしまった外来魚をすべて駆除することは大変難しいものです。大津さんの言うとおり生態系を保全していくためには、「入れない、捨てない、拡げない」という外来生物被害予防三原則を私たち一人一人が意識を持って守っていくことが大切です。

大津さんから提案をいただきました「外来種の料理提供」は、ただ外来魚を駆除するだけではないユニークなアイデアです。館林市には、城沼のほかにも多々良沼や近藤沼などがあります。これから市内にある沼の生態系を保全するために、様々な人たちと連携しながら、外来魚の駆除対策を研究するとともに、生態系の保全について取り組んでいきたいと考えています。

五小の ^{よしだ}吉田 ^{めい}芽生 と申します。

それでは質問させていただきます。

つつじヶ岡公園の猫の増加について

私は、花山町に住んでいますが、最近、猫の増加が気になります。特につつじヶ岡公園です。野良猫が多くなる原因は、野良猫にえさをあげている人がいるために、そのえさを目的に猫が集まっていて、さらに、その猫が子猫を産んでしまうため、野良猫が増加してしまいます。このような野良猫の増加を防ぐために保護した方がよいと思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

館林市には、猫の保護し設がないので館林市に保護猫カフェを作ってみてはどうでしょうか。つつじヶ岡公園の猫は人なつっこい猫もいるので、作ってみるのもいいのではないかと思います。また、保護猫カフェをやる場所は、つつじヶ岡公園内で、保護猫カフェでエサをあげる人は、猫が好きな人、つつじヶ岡公園でえさをあげている人がいいと思います。

そうすれば、つつじヶ岡公園でえさをあげていた人達も保護猫カフェに行って、えさをあげられるので、つつじヶ岡公園でえさをあげることも少なくなって、散歩している人も楽しく散歩できるのではないかと思います。

市では、つつじヶ岡公園の猫の増加についてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願いします。

五小 吉田^{よしだ} 芽生^{めい}さんの質問への答弁

「つつじが岡公園の猫の増加について」

五小 吉田さんの質問にお答えいたします。

吉田さんが言うように、ここ数年つつじが岡公園では捨て猫や野良猫など、「飼い主のいない猫」が増えてしまっています。

その対策として、つつじが岡公園では「群馬県飼い主のいない猫対策支援事業」として地域猫活動に取り組んでいます。この地域猫活動とは、登録されたボランティアの人達が、決められた時間と場所で餌をあげるほか、猫の不妊去勢手術を行い飼い主のいない猫を増やさないようにする、そして最後まで猫の面倒をみる活動をしています。

また、吉田さんから、つつじが岡公園に保護猫カフェを作ってはどうかというご提案をいただきましたが、課題もあります。

それは、猫の習性です。猫は縄張り意識が強く、決まった所で行動するため、特定の場所でじっとしていることは難しく、さらに長時間見知らぬ人たちと接することは、猫たちにとってストレスの原因となってしまうことがあるからです。

市では、つつじが岡公園で飼主のいない猫が増えないようにするため、引き続き地域猫活動を進めていくとともに、可愛いから、可

哀そうだからと言って、猫に勝手に餌をあげないこと、猫を捨てることは犯罪に当たりいけないことだということを、公園を利用する多くの人達にさらにPRしていきたいと考えています。

ぜひ、吉田さんもお友達などへ、つつじが岡公園での取り組みをたくさんPRしていただけると嬉しいです。

九小の ^{やまぐち}山口 ^{りゅうと}瑠斗 と申します。

それでは質問させていただきます。

館林市の桜の木を守ることにについて

私は、学校の登下校中の道の桜の木が害虫によってきられているところを見ました。害虫のよう虫が成長してしまうと、拡散してしまうおそれがあると思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

市内にある桜の木に、クビアカツヤカミキリ対策をすることを提案します。

そうすれば、クビアカツヤカミキリが拡散することは減ると思います。

市では、館林市の桜の木を守ることにについてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願いします。

九小 ^{やまぐち}山口 ^{りゅうと}瑠斗さんの質問への答弁

「館林市の桜の木を守ることにについて」

九小 山口さんの質問にお答えします。

クビアカツヤカミキリによって市内の桜の木が無くなってしまふことは、大変残念で悲しいことです。クビアカツヤカミキリは、もともと日本には生息していませんでしたが、外国の貨物に紛れて日本に持ち込まれたようです。

この虫は、桜や梅、モモなどの樹木の内側を食い荒らし、木を弱らせ枯らしてしまふため、桜の花見や梅などの生産に大きな影響が出るおそれがあることから、法律で人の迷惑になる外来種として「特定外来生物」に指定されており、生きたまま移動したり飼うことが禁止されています。クビアカツヤカミキリによる桜の被害は、館林で初めて発見された平成27年度は50本程でしたが、天敵がおらず繁殖力も強いため爆発的に増加し、令和元年度には1,000本を超えてしまいました。

市ではクビアカツヤカミキリから桜を守るため、3年前から「クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」を開始しました。このプロジェクトは、市だけでなく多くの市民の皆様にご協力をいただきながら進めていくもので、大きく3つの制度があります。

まず一つ目は駆除奨励金及び奨励品交付制度です。市内でクビアカツヤカミキリの成虫を駆除し死骸を提出された方に、1匹あたり50円または飲料水を差し上げるものです。

二つ目は防除用品の配布制度です。ご自宅や会社などで被害を受けている方へ、スプレー式薬剤と拡散防止のためのネットを配布しています。

そして三つ目、被害木への薬剤注入制度です。クビアカツヤカミキリの幼虫は木の中で2年から3年かけて成虫になるので、木に薬剤を注入して薬がしみ込んだ樹木を幼虫が食べることで駆除するものです。

市ではこのような取り組みを行っておりますが、まずはこのクビアカツヤカミキリという虫を知ってもらい、山口さんのように桜の木を守ることに関心を持ってもらうことが大事なことだと思います。そして館林市から桜の木を無くさないためにも、この撲滅プロジェクトに一人でも多くの皆さんに参加してもらいたいと思います。山口さんの提案のとおり、クビアカツヤカミキリ対策をこれからも行っていきますので、たくさんの桜が咲くまちであるよう一緒に頑張っていきましょう。

第6グループ

(保健)

一小的^{きたおか}北岡^{はな}華と申します。

それでは質問させていただきます。

館林厚生病院の医師不足について

兄が骨折した時に、すぐ近くの館林厚生病院では診察してもらえず、手術、入院ができませんでした。また、産科が無いため安心して出産することができません。このようなことが無くなるように、館林厚生病院に医師を増やしてほしいと思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

地元で医師になりたいと思う子どもに、医師のやりがいや良さを伝えるイベントや院内の見学、体験を子ども向けに行います。

そうすれば、館林市から将来医師になる子どもが増えて、地元で医師になり、地域の病院で働いてくれるので、館林の医りょうが充実し、館林厚生病院の医師も増えると思います。

市では、館林厚生病院の医師不足についてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願いいたします。

一小 ^{きたおか}北岡 ^{はな}華さんの質問への答弁

「公立館林厚生病院の医師不足について」

一小 北岡さんの質問にお答えいたします。

北岡さんが指摘されているように、館林市の総合病院である公立館林厚生病院ではお医者さんが不足していますが、多くの救急患者の受入れをしています。しかし、特にお医者さんが不足している小児科や産婦人科などの救急患者は、太田市や足利市、佐野市などにある総合病院にお願いしている状況です。

市では、お医者さん不足解消に向け、国や県にお願いしたり、群馬県や埼玉県、栃木県、東京都にある大学病院に行って、お医者さんが館林市に来てくれるようお願いしています。その結果、平成29年から令和3年までに10人のお医者さんが増えました。しかし、それでもお医者さん不足の解消にはつながっておらず、特に小児科や産婦人科のお医者さんは、日本中で不足しているので、国や県に対しても「小児科や産婦人科のお医者さんが増えるようにしてほしい」とお願いしています。

これからも、公立館林厚生病院にお医者さんが来てくれるように、あらゆる方法で、いろいろな大学病院などに行ってお願いしていきます。

その他、公立館林厚生病院では、中学校での職場体験学習で病院を希望したかたや、医学部の大学を目指している高校生、それから就職活動をしている医学大生の施設見学などのお願いを受けていますが、北岡さんからの提案については、貴重なお話しとして病院にも伝えさせていただきたいと思います。

北岡さんもぜひお医者さんを目指して、たくさん勉強をして、市民のために公立館林厚生病院で働いてください。

第7グループ

(産業)

五小の ^{たかせ}高瀬 ^{ほのか}穂乃香 と申します。

それでは質問させていただきます。

農作物の被害について

私は、ハクビシンやカラス、タヌキなどが農作物を食べあらしめているので野菜の収穫量が減っていると思います。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

ネットや電気さく、ストロボを設置する費用が高額で、助成金があれば設置する人が増えると思うので、助成する制度をつくるといいと思います。

そうすれば、ネットや電気さくの助成することで、農業生産者が野生動物の被害対策をしやすくなると思います。被害対策をすることで、ハクビシンやカラス、タヌキなどの野生動物が農作物をあらすことが少なくなり野菜の収穫量が増えると思います。

市では、農作物の被害についてどのように考えていますか。教えてください。よろしくお願いします。

五小 高瀬^{たかせ} 穂乃香^{ほのか}さんの質問への答弁

「農作物の被害について」

五小 高瀬さんの質問にお答えいたします。

高瀬さんが、ご心配されているように、ハクビシンやタヌキ、カラスなどの有害鳥獣からの農作物への被害は、年々増えています。

本市の対策としては、農業生産者さんが大切に育てた農作物を守るために、被害を受けた連絡があると、市の職員が、ハクビシンやタヌキなどの中型獣類を捕獲するための「箱わな」を農地に運び、設置しています。

また、カラスやスズメなどは、本市の主要な農産物であるお米や麦を収穫する前に食べてしまいます。

その対策としては、猟友会の人たちに、小麦を収穫する前の春先と、お米の稲穂が実り始める秋口に、周辺に人家が無い地域に限って、市が許可をして、散弾銃で捕獲してもらっています。

このように本市では、有害鳥獣から農作物を守る取組みを行っていますが、有害鳥獣の数も増え続けており、農作物の被害をゼロにすることは、なかなか難しいのが現状です。

高瀬さんからご提案のあった、有害鳥獣を捕獲するためのネットや電気さく、ストロボなどへの助成についてですが、これらの器具

を設置することで、ハクビシンやタヌキ、カラスなどの有害鳥獣を追い払うことが出来れば、農作物を守ることができるかもしれません。

これらの器具は、どんどん改良され、次々と新しい製品が出てきていますので、どのような器具が効果的なのか、農業生産者さんの意見も聞きながら、検討してまいりたいと思います。

第8グループ

(公園)

八小の 久保田^{くぼた} るな と申します。

それでは質問させていただきます。

公園の石けんの設置について

私は、公園で遊んだ時に、手がよごれたり、トイレに入った時には手洗い場で手を洗いますが、ほとんどの公園では石けんが無く、きちんと洗えなくて少し気持ち悪い事があります。菌が残っていないか心配です。

そこで、こんな提案をさせていただきます。

全部の公園は難しいと思いますが、私たちの地域でいうと、高根中央公園や多々良沼公園、高根運動場など人が多く集まる場所の手洗い場に石けんを設置したらよいと思います。

そうすれば、手がきれいになり、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症予防にもつながると思います。そして、安心・安全に公園や運動場などを利用できるようになると思います。

市では、公園の石けんの設置についてどのように考えていますか。教えてください。よろしくをお願いします。

八小 久保田^{くぼた} さんの質問への答弁

「公園の石けんの設置について」

八小 久保田さんのご質問にお答えいたします。

いつも公園を利用していただきまして、ありがとうございます。

久保田さんの提案のように、公園のトイレの手洗いや水飲み場に石けんや消毒液を設置できれば便利ですよ。

本市でも過去には石けんや消毒液を設置していましたが、液体容器の破損、持ち去り、さらには全国的に消毒液への異物の混入などがあり、無人の屋外施設に設置するのは難しいため基本的に石けんや消毒液を設置しておりませんが、中央公園では、動物とのふれあいが出来る公園であり常駐の飼育員がいるため、衛生面を考え石けんや消毒液を設置しております。

また、館林市が管理する公園では新型コロナウイルス感染拡大予防策として、つつじが岡公園や多々良沼公園等の利用者の多い大きな公園については、トイレ等の手洗いの蛇口をセンサー式の自動水栓に取り替えるなどの対応を図っております。

手や指についたウィルスには、洗い流すことも重要です。国土交通省が定める身近な公園利用の4つのポイントにおいても、流水による15秒の手洗いで、ウィルスを1/100に減らすことが

出来るため、こまめな手洗いを推奨しています。

今後も皆様のご意見を参考に、感染拡大予防対策を行い、安全・安心に公園をご利用していただけるよう、公園管理に取り組んでまいりますので、これからもお友達を誘って公園に来てください。